

洪水

この冊子の記事情報は、2024年8月現在のものを使用し作成しております。最新の情報は由布市のホームページよりご確認ください。

川のはん濫

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

雨量の増加によってもたらされるはん濫には、川から水があふれたり、堤防が決壊して起こる「外水はん濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水はん濫」の2タイプがあります。

外水はん濫

大雨によって、河川を流れる水が大幅に増え、堤防が決壊したり、堤防から水があふれ出す現象です。



内水はん濫

排水能力を超える多量の雨が降り、排水が追い付かず土地や建物が水に浸かる現象です。



大雨によって想定される被害

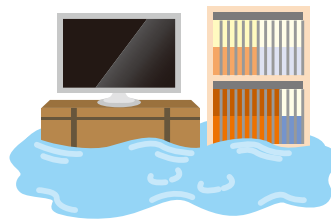
道路の冠水

エンジンが停止したり、ドアが開かないなど、車内から出られないことがあります。



床下・床上浸水

流れ込んでくる水は泥水であり、水がひいた後も土砂や汚泥が堆積するため、片付けが大変です。



家屋の倒壊

河川沿いでは、家屋が倒壊する可能性があり、命の危険もあります。



洪水における避難のポイント

！ 浸水が始まる前に早めの避難を

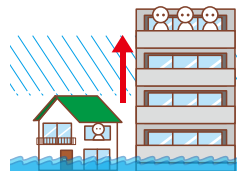
はん濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してからの自宅外へ避難は危険。

気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。



！ 状況に応じた避難を

周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に退避する。



！ やむなく浸水の中を歩く際は

裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適している。また、はん濫水は濁っているため、水面下が確認できない。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物に注意する。



！ 川や用水路に近づかない

降雨が続く不安に思っても、川や用水路、田畑の様子は見に行かない。やむを得ない場合は複数人で行動する。河川の様子の確認は、ライブカメラ情報を活用する。また、避難の途中も増水した川の近くを通るのは避ける。



！ 地下室、地下街は危険

地下にいる場合、地上の様子が把握しづらく、避難経路が限定される。また、地上が冠水すると、一気に水が流れ込んでくる場合もある。停電の可能性も高く、脱出が困難となる。



！ アンダーパスは危険

道路や線路の下をくぐるアンダーパスや地下道は、洪水の際、真っ先に浸水する。場所を把握し、迂回路を想定しておく。

